

地路裏 探険

まるやまおうきよ
円山応挙ゆかりの
だいじょうじ
大乘寺の門前町。

川いとや黒壁の旧家など
歴史の面影を辿りながら
応挙の散歩道を歩く。



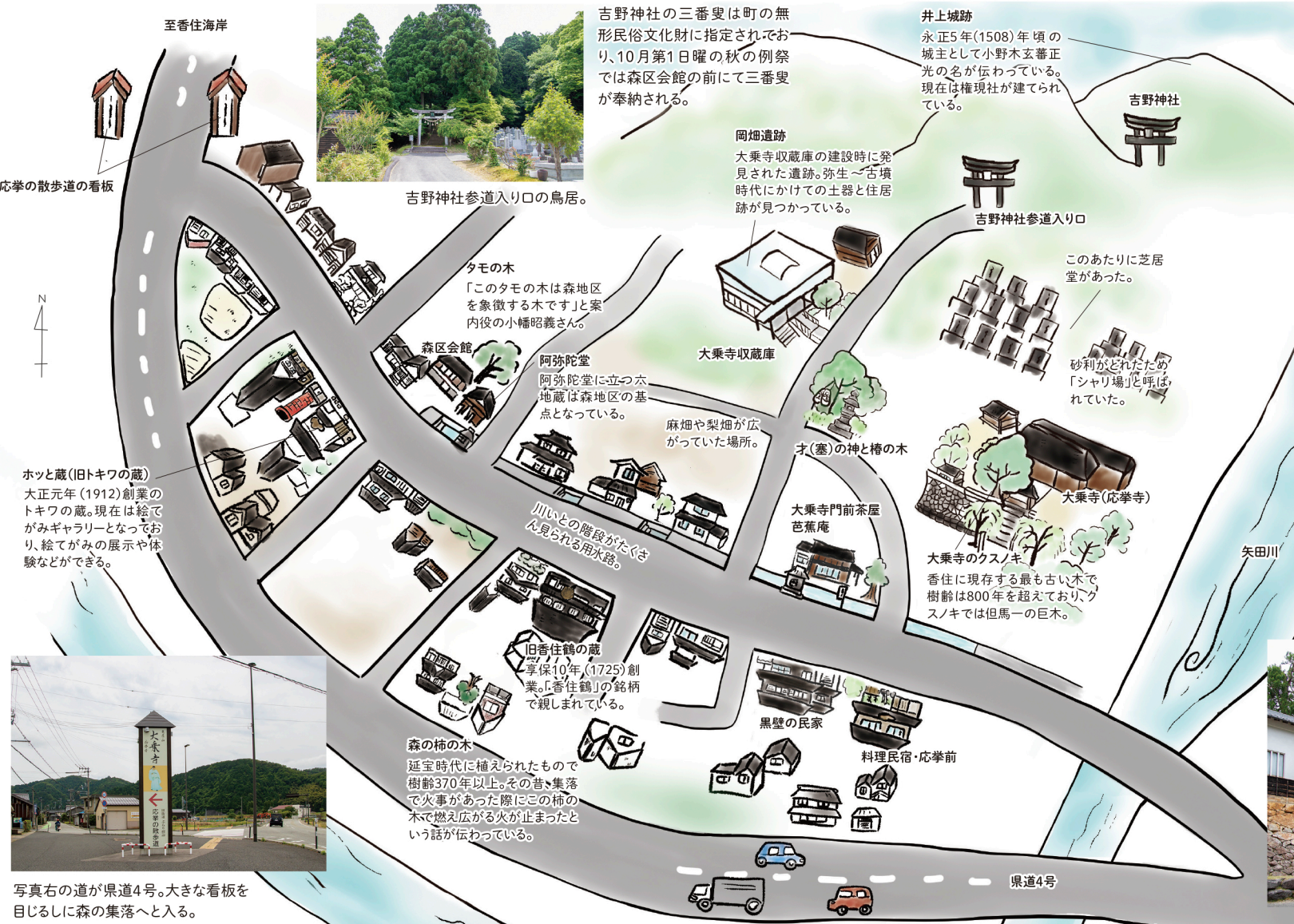
川いと存在感が印象的な森の集落。子どもたちが泳いだり、大人は井戸端会議をしたりと、地域住民のコミュニティの場であった。



こじんまりとした閑静な住宅地の中に、このような趣のある佇まいの住居がふいに顔を覗かせる。黒く塗られた白壁は戦時中の名残り。たくさんあった商店の面影は見られないが、豆腐屋を営んでいた案内の久保義久さんは「畑でとれた大豆をもらい、作った豆腐を物々交換していましたね」と思い出話を語る。



城の石垣のような大乘寺の山門。一門の弟子と共に描いた障壁画164面（一部はデジタル複製画を展示）と書簡1巻は、すべて国の重要文化財に指定されている。



写真右の道が県道4号。大きな看板を目じるしに森の集落へ入る。

森地区の「木」を訪ねて

集落が矢田川にぐるりと囲まれているよう。

至香美町村岡区

参加者募集休止のお知らせ
新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、参加者の募集はしばらくのあいだ休止とさせていただきます。募集を再開する際には、こちらの募集欄にてお知らせいたしますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。皆さまにお会いできる日を楽しみにしております。



阿弥陀堂のタモの木



大乘寺のクスノキ



森の柿の木



森の柿の木からとれた柿で作った干し柿を取材中にいただいた。柿の甘みが疲れた体に染みてほっこりうれしい気持ちに♪

才(塞)の神足の神様を祀っているため、靴が供えられている。祠の場所に生えている柿の木は大きく、子どもたちの遊び場となっていた。



江戸時代に活躍した絵師・円山応挙ゆかりの寺として有名な「大乘寺」。応挙とその一門の手による障壁画が描かれていることから別名「応挙寺」と呼ばれ親しまれている。
応挙は享保18年(1733)に現在の京都府亀岡市で農家の次男として生まれる。絵の勉強のため京都で苦学をしていたところ、当時の大乘寺住職・密蔵上人(みつぞう)が才能を見込んで学資を援助したことがあった。画壇の頂点へと登りつめた応挙は、恩返しとして大乘寺客殿の建築の際に、一門の弟子と共に大乘寺の障壁画を描いた。応挙にとつて上人は、忘れられない恩人だったのである。
香美町香住区森は、大乘寺の門前町として形成された集落で、寺を中心に生活圏が広がっていた。「糶屋、紺屋(染物屋)、豆腐屋、

畳屋、ろくろ屋、まんじゅう屋、雑貨屋、酒屋などの店が軒を連ね、生活に必要なものは地区内で揃っていました」と区長の中村光男さん。今は商人のまちであった面影はあまり残っていないが、古い佇まいの商家はいくつか見ることが出来る。その家屋の漆喰の壁には黒い塗料が塗られていた。これは戦時中に、敵の飛行機に狙われないよう、目立つ白壁を黒く塗ったものの名残なのだそう。
また、森地区は老舗の造り酒屋「香住鶴」と調味料メーカー「トキワ」の創業の地でもある。河川の伏流水や湧き水を使う醸造業は、良い水が湧き出る場所に多く、矢田川に直角に囲まれた森は最適の地であった。「子どもの頃は樽でかくれんぼをしたり、テレビでヒーローものを見させてもらったりと、みんなで気軽に香住鶴さんへ遊びに行っていましたね」と案内役の前田精一さんは話す。
斬られ役で有名な俳優の福本清三氏も森出身だ。彼もこの地を駆け回って遊んでいたそう。
集落を貫く旧県道4号線を歩いてみると、道沿いの水路に設置されたいくつもの階段の存在に気がつく。「これは、川いとへつながる階段です。それぞれの家から階段が出ていて、洗濯や野菜を洗う洗い場でした。うなぎや鯉、イス(ウグイ)をとり、夏には水路で泳いで遊んでいました」と前田さん。川いととは地域住民の交流の場であったそう。
大乘寺の裏山へと続く細い道に入る。ここは昔の街道で、周りには麻畑が広がっていたが、昭和30年代になり麻は梨の栽培へと変わった。矢田川に沿って集落を形成する以前には、このあたりにいくつかの住居があったとされており、森地区の起源となった場所なのではと考えられている。
また、寺の裏山斜面は今も墓地となつているが、明治時代の地図には芝居堂があったと記されている。
大乘寺へと歩を進めると、案内役のみなさんの思い出話がどうと花開いた。「大乘寺の山門は城壁のような珍しい造りでしょうか？子どもの頃は登って遊んでいました。7月にある観音祭りは境内に夜店が出ていて、とても賑やかだったのを覚えています」。「山門前で野球をしていて、中に入ればホームラン！とか、ありましたね」。「境内の大きな椎の木。台風の後には椎の実を取りによく来ていたなあ」。
今では貴重な文化財となつている大乘寺だが、森地区の子どもたちの遊び場として、住民たちの憩いの場として、人々を温かく見守ってきた歴史を垣間見ることができた。